

# 雲南市立加茂中学校 P T A の実践

## 1 雲南市立加茂中学校 P T A の特徴

### (1) P T A の特徴

本校 P T A（会員数 145 名）は、4 つの専門部と各学年 P T A で組織している。また、今年度より 1 つの保育園が加わり、校区内の 2 つの園と 2 つの学校の P T A 三役で連絡会を年に 2 回開催したり、合同 P T A 講演会を年に 1 回開催したりしている。

### (2) 「人権意識調査」の結果と分析

- ① 調査対象 全保護者
- ② 調査目的 年に 2 回調査を実施し、保護者の人権に関する意識を検証する。
- ③ 調査項目 比較・研究のため、校内推進委員会で検討した 9 つの項目で実施した。
- ④ 検証結果

昨年度から大きな変化は見られなかった。自身の人権感覚が身につけていると認識している割合は約 70% であった。また、「人権の大切さについて周囲に働きかけたい」とは思っているが、「家族で人権について話し合う」、「身近な人が人権を侵害する言動をした時、誤りを正して止めさせる」との回答は約 40% で、周囲に働きかけたい気持ちがあってもなかなか行動に結びつきにくい状況は変わらなかった。

## 2 特色ある取組

### (1) 取組の概要（ねらい）

「人間関係づくり」「集団づくり」をテーマに人権教育研究指定校事業を進めており、P T A 活動においても保護者同士、保護者と生徒、保護者と教職員など、それぞれ良好な人間関係を築くことをねらいとして取り組みを進めた。

### (2) 取組の詳細

#### ① 人権講演会

ア ねらい 様々な人権をテーマにした講演会を開催し、P T A 会員の人権意識を高め、家庭でも人権について話し合うきっかけとする。

イ 期 日 令和 5 年 7 月 7 日（金）

ウ 会 場 加茂中学校体育館

エ 内 容

生徒の人権に関するアンケートから本校の課題について人権集会で話しあい、その後、昨年に引き続き飯開輝久雄さんを講師に招いて、歌と語りで人権課題についての講演を聞いた。作詞・作曲していただいた「かもト〜〜ク！！」のテーマソング「今日も仲間とつなぎあえたかな」を全校が一緒になって歌うなど、歌詞に込められた熱い思いが会場全体に伝わる講演会となった。生徒も保護者も自分自身の言動を振り返り、他者とのかかわり方について考える良い機会となった。



#### ② 保こ小中合同 P T A 講演会

ア ねらい 子どもの発達や関わり方について理解を深める。

イ 期 日 令和 5 年 7 月 3 0 日（日）

ウ 会 場 加茂交流センター 大会議室

エ 内 容

小児科医の立場からの子どもの成長と心の発達などに関する内容で、愛着形成の大切さ、スポーツ障がい、情報メディアの子どもへの影響、ゲーム依存症、性の問題・性被害などについて、医師としての見識や経験を踏まえた講演を聴いた。



### ③ 学年PTA「こころの健康座談会」

ア ねらい 親学プログラムを通して、子どもへの接し方や好ましいコミュニケーションの取り方等について考える。また、保護者同士で楽しく話し合いながら、保護者同士の親睦を深める。

イ 期 日 令和5年6月7日(水)

ウ 会 場 加茂中学校体育館ミーティングルーム

エ 内 容

雲南市教育委員会キャリア教育政策課から2名のファシリテーターを派遣してもらい、「食生活を見直そう」をテーマに行った。始めに「かもとくタイム」の「アドジャン」を取り入れ、保護者同士の親睦を図った。その後、「食について」の話聞き、わが家の食生活を振り返ったり、グループで話し合ったりしながら、子どもの食を取り巻く課題について考え、家庭の食生活を見直す機会となった。「家族で一緒に過ごす時間を作ることができる食事の時間をこれから大切にしたい。」「食は心の栄養ということを改めて感じた。」などの保護者の感想があった。



### ④ 保護者から生徒へ「きらきらメッセージ」の掲示

ア ねらい 体育祭、合唱コンクールでの生徒の活躍に対して、保護者から生徒にメッセージを送ることで、生徒の自己肯定感や意欲の高揚を図る。

イ 期 日 体育祭 9月9日(土) 合唱コンクール 10月27日(金)

ウ 内 容

事前にメッセージカードを配布し、保護者から提出してもらったメッセージカードを模造紙に貼り、生徒の目に付きやすい廊下に掲示した。これまで生徒たちの活動に対して保護者から直接評価をする機会がなかったため、生徒たちがうれしそうにメッセージを読んでいた姿が印象的であった。保護者からのメッセージは、生徒たちの意欲を掻き立て、励みになる内容であった。



### (3) 取組を終えて(成果と課題)

座談会や講演会等に参加した保護者からは肯定的な意見が多数寄せられた。同世代の子育てに悩む保護者同士の情報交換の場となり、保護者同士の関係づくりにも効果的であった。また、講師の方の言葉から、子どもへの肯定的な見方や声掛けについて改めて見直すことにもつながった。

「人間関係づくり」をねらいにしたことで、自分自身の言動を振り返り、他者とのかわり方について考える機会が増え、生徒、保護者とも幅広く人権について意識しながら活動することができた。その中で、日常生活のほとんどの活動が人権にかかわっていることに改めて気づくことができた。

課題としては、学校評価で、生徒と保護者の評価に大きく違った項目があり、行事や生徒の頑張り等について、学校からの情報発信の仕方を工夫したり、保護者に知らせる機会をさらに増やしたりする必要性を感じた。また、研修会や講演会の参加者からは「参加してよかった」との意見がある一方、なかなか参加者を増やすことは難しく、より多数の保護者が参加できるような広報活動や趣旨説明の仕方等についてさらに改善を図る必要がある。いつか、家庭が『人権について語り合うことができるような場』になることをめざして人権教育を進めていきたいと考える。